

=====
ことばだより No.100

ことばのもり 2004.11.17

=====
「書くことがあるかな」と思いながら、
ここまで続けることができたのは、
読んでいただいている皆さんのおかげです。
これまで、ありがとうございました。
これからもよろしくお願いいたします。

■■■■ INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

■■■■■■■■■■

ことば徒然

野球のダイエーの監督 王は、現役時代にホームランの本数で世界記録を樹立しました。
そのときのインタビューで
「通過点です。」
と答えていました。

子どもはいつも新しいことを経験しています。
新しいことを獲得し、発達していきます。
新しいことを学んで、学習していきます。
子どもはいつも「通過点」にいます。

「ことばだより」の100号も「通過点」です。

言語性を伸ばす指導

算数の問題づくりの続きです。
さて今度は子どもに作ってもらいます。
「みかん」の絵カードを使います。
「みかんが3こあります。」

そうすることで、子どもはことばを覚え、表現していくんだと思います。
同じことを今さっき答えたでしょう。
まだ覚えていないの？
では子どものことばは育ちません。
同じことを問われても、違った方向から答えるようにすればどうでしょうか。

言語性を伸ばす指導

これから、しばらく「かず」のことについてまとめます。
子どもにとってむずかしい内容かもしれませんが、ことばの教室でこんなことをしています。
式からお話し問題を作ることをしています。
はじめに式（ $3 + 2 =$ ）を示します。
その後、こんな風に例示します。
りんごのシールを3枚と2枚はっている絵カード二つを次のような文が書いてあるプリントの上におきます。
「りんごが（りんご3個の絵カード） あります。
りんごを（りんご2個の絵カード） もらいました。」
そして、絵カードと文を指差しながら、
「りんごが3こあります。
りんごを2こもらいました。」
と読み、復唱するように言います。
さいごに、みんなで何個になりますか。
と問います。
そして、式を書き、答えを求め、答えるようにします。
このあと、式を出して、まねさせるようにします。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

天気の良い日が続きます。

散歩でもしたくなります。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

■■■■ INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

■■■■■■■■■■

ことば徒然

「お風呂に 10 まで入っていよう」と子どもに言うことがあります。
それを「少し変えて、みてください。」と幼児のお母さんに話すことがあります。
「犬を十匹まで数えてみよう。」
「一週間を言ってみよう。」
「鉛筆を十本まで数えてみよう。」
「一日（ついたち）から十日（とおか）まで数えてみよう。」
というように。

言語性を伸ばす指導

「はじめに」「つぎに」「それから」「さいごに」、
「一番目に」「二番目に」・・・「最後に」、
時間の経過を表すことばです。
順序だてて話しをするときや作文を書くときに使うと便利です。
教室で何をするのか、何をしたのか話すときに使います。
「はじめに」本を読みます。「つぎに」計算をします。「それから」発音の練習をします。
「さいごに」お母さんとお話をします。
と言って指導を始めます。
指導を終えて、出口に向かうときに話しかけます。
「はじめに」本を読みました。「つぎに」計算をしました。「それから」発音の練習をしました。
「さいごに」お母さんとお話をしました。
と言って指導を終えます。
しばらくこれを続けます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から
地震の被害にあわれた方へ
お見舞い申し上げます。
阪神淡路大地震を思い出しました。
一日も早く復興することを願っています。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.97

ことばのもり 2004.10.27
=====

■■■■ INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

■■■■■■■■■■

ことば徒然

4歳代の子どもは、いろんなことを経験します。
それまでは、身近にいる大人と遊ぶだけでした。
しかし4歳代になると、同年齢の友だちと話しあい、理解しあい、工夫して遊ぶようになります。

それまでの大人と自分だけの世界から、大人、友だちと自分の世界につくりかえていきます。
このとき、いろいろな退行現象が見られるようです。
急にお母さんに甘えることもあるようです。
親子で体を動かし楽しい時間を過ごしてみてください。
子どもがしたいと言う遊びをし、体を動かしてみてください。

言語性を伸ばす指導

「ザブーン、ジャバ、ジャバ、ジャバ。」

「はんぶんずつ すこしずつ」のくまじいさんが魚を捕まえようと川に入り、歩いている音です。

いすの上に立ちます。

「ザブーン、ジャバ、ジャバ、ジャバ。」

と声に出して、とびおりて歩きます。

子どもにも動作化させます。

そのとき

「チャポーン、ピチャ、ピチャ、ピチャ。」

と言います。

「何か変だね」

と違いを考えてみるのもいいと思います。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

今まで気づきませんでした。

発行日を2003年と書いていました。

のんきなものです。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.96

ことばのもり 2003.10.20

=====
■■■■ INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

■■■■■■■■■■

ことば徒然

子どものころ、お祭りに行くと、いつも買って帰りました。

りんご飴です。

りんごが特においしいわけではありません。

飴がそれほどおいしいわけでもありません。

それでも、買って帰りました。
飴をなめてはりんごをかじっていました。
りんご飴を買いに、お祭りに行っていたようにも思います。
りんご飴を買うことを楽しみにしていました。
こだわりだったのかもしれませんが。
こだわりに近い楽しみがあったからこそ、一人でもお祭りに行けたんだと思います。

言語性を伸ばす指導

発達の課題に、経験を話すというのがあります。
遠足で動物園に行ったのなら、
動物の絵カードを用意しておきます。
ぞうやかば、さるなどの絵カードを見ながら、
「このどうぶつは、見たかな？」
と問います。
「見た」
と返事が返ってきたら、その動物の名前を書きます。
「大きかった？」「何をしていた？」と問いながら、子どもの返事を書いていきます。

「どうぶつえんにいきました。
ぞうをみました。
大きかったです。
あるいていました。」

書いたものを読めば、経験を話しにくい子も表現できたことになります。

教室ではこのような方法を繰り返しています

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

日差しがやわらかくなりました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.95

ことばのもり 2003.10.13
=====

■■■■ INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導



ことば徒然

「説明したからわかるでしょ」
とついつい思ってしまいます。
わからないんだから、もう一度同じ説明をすることです。
それで、わからなければ、ちがう方法で説明することです。
それでも、わからなければ、同じような問題を同じように解かせることです。
理解できなくても、どんな方法で解けばいいのかわかるでしょう。

子どもには変化させながら、繰り返し対応することが大事です。

言語性を伸ばす指導

かさの絵カードを並べます。
「おおきい」「ちいさい」に分けます。
「おおきい かさ」と「ちいさい かさ」と表現します。
同じ物で大きさが見てわかるように描かれた絵カードを並べていきます
「おおきい ぼうし」と「ちいさい ぼうし」
「おおきい くつ」と「ちいさい くつ」
.....

次は違うもので大きさが見てわかるように描かれた絵カードを並べます。

「おおきい おにぎり」と「ちいさい たね」
「おおきい ぞう」と「ちいさい あり」
.....

そして、ほぼ同じ大きさにかかれた絵カードを並べます。

ここではイメージを問います。

「本当はどっちが大きいかな」
.....

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

台風が過ぎてやっと晴れました。

皆さんおところではどうでしたか。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.94

ことばのもり 2003.10.6

■■■■ INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

■■■■■■■■■■

ことば徒然

雷が鳴っています。

「ゴロゴロ」という音が耳から入り、光が目から入ってきます。

最後に音がおなかに響いてきます。

雷の怖さが、耳から、目からそしておなかから伝わってきます。

子どものころは、雷さんに持っていかれては大変と、おへそをおさえていました。

ありえないと思いながらも、おへそをおさえていました。

もしかしたら、雷の音がおなかに響いてくるのをやわらげていたのかもしれませんが。

おへそをおさえることで、怖さを少しでも感じないようにしていたのかもしれませんが。

子どもが、怖さを感じることも大切です。

言語性を伸ばす指導

りんごの絵カードを用意します。

3個のりんごと2個のりんごを見せて

「どっちがおおい？」と聞きます。

次に

「いくつちがう？」と聞きます。

3個のりんごと2個のりんごの絵カードを縦にならべて、比べます。

1こちがう

ことを確かめます。

そして、

3このりんごのほうが1こおおい。

2このりんごのほうが1こすくない。

と教えます。

りんごの絵カードを使い、ほかの数でも確かめます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

栗の木の実がはじけました。

急にすずしくなりました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====

ことばだより No.93

ことばのもり 2003.9.29

=====

■■■■ INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

■■■■■■■■■■

ことば徒然

運動会のシーズンです。

課題をマイペースでやる子が、意外と足が速かったり、

大人の指示を聞かない子が、高学年のお兄ちゃんやお姉ちゃんに手を引かれていたり、

声の小さい子が応援団に入ったり、

一対一の指導場面の様子しか知らない自分には、運動会は発見の場です。

「子どもが集団のなかでどのように過ごしているか」を見るいい機会です。

去年の子どもの姿を思いだしながら、見ていると子どもの発達に気づきます。

言語性を伸ばす指導

「おおきい」と「ちいさい」、「ながい」と「みじかい」、「はやい」と「おそい」
「たかい」と「ひくい」、「おおい」と「すくない」など

2つのものを比較することばです。

くつの絵カードを用意し、くつの話をしていきます。

□□さんのくつは何色？

○○くんのくつにはどんな絵が描いてあるの？

雨が降るとちがうのをはくよね。なんて言うのかな？・・・

等聞っていきます。

次にお父さんと革靴の絵カードを出します。

お父さんのくつとちがうところはどこかな？

と問います。

答えられなければ、「おおきい くつ」「ちいさい くつ」と教えます。

そして、絵カードを出して「おおきい」「ちいさい」を表現につかっていきます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

運動会が終わりました。

一日外に出ていて、腕が真っ赤になりました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.92

ことばのもり 2003.9.22

■■■■ INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

■■■■■■■■■■

ことば徒然

幼児の指導を終えてお母さんと話しているときです。
お母さんが幼児の妹の姿を見て、
「あれっ？」と言って、はいはいをしている妹に近づいていきました。
妹さんの口に手を出し、「ぺっ、して」と言っています。
幼児の妹の唇は閉じたままです。
お母さんは指で唇を開いて、口の中から消しゴムを取り出しました。
「いつも見ているお母さんだからわかるんだ」
と思いました。
お母さんは自分の子どもの専門家だと思いました。

言語性を伸ばす指導

1年には四つの季節があります。
「はる」「なつ」「あき」「ふゆ」を読みます。
今は何という季節かな？と聞きます。
わからないようでしたら、「なつ」の次の季節だよ。何と言う季節かな？とヒントを出します。
それでも出てこなければ「あき」と教えます。
つづけて、「チュウリップ」「ひまわり」「コスモス」の花の絵カードを出します。
今の季節に咲く花はどれ？と聞きます。
「コスモス」であることを教えます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

「秋」の話をしていますが、まだまだ暑いですね。

でも確実に秋はきているはず・・・。

きっとどこかに・・・。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.91

ことばのもり 2003.9.15

■■■■ INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

■■■■■■■■■■

ことば徒然

ことばの教室に指導する幼児といっしょに弟妹が来ることがあります。
発音の練習をしていると、弟妹のほうが先に模倣できることがあります。
舌の動きに癖がある場合は、改善まで時間がかかります。
舌に癖のない弟妹のほうが模倣しやすいんです。
このときは、お母さんに、もう一度、舌に癖があることを話します。
弟妹に、兄姉ががんばっていることを話します。
そして、今までより少し練習時間を長くして、がんばっている様子を弟妹に見せるようにします。

弟妹のほうに先に発音できていることには触れなくて、兄姉には、次のようなことを話します。

発音を治せなくてごめんね。
練習をがんばってね。
今がんばらないと、治らないよ。
後もう少しだから、がんばってね。
どれがいいのかな。

言語性を伸ばす指導

「ひかる」ということばを読みます。
ひかるものは何かな？と聞きます。
ライト、とうだい、いけ（ことばの教室の窓から、池が見えます。太陽の光を反射させています。）ほし、ほたる、かみなりと答えるでしょうか。
それを文で表現します。
○○がひかる。
そのあと

まぶしいのはどれかな？

きれいだなと思うのはどれかな？と問います。

次に

かみなりがひかると、□□さんはどう思う？

ほたるがひかると、　　くんはどう思う？

と問います。

答えたのを文にします。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

夏ばてでしょうか？

今日は一日中眠い。

ことばのもり　管理人　漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／